加古郡シルバー人材センター 製作の竹炭が好評

平成十三年七月から加古郡シルバー人材センターの有志の方々が、竹炭を製作しています。

▲マイナスイオンでリフレッシュ

この竹炭を作り出したきっかけは、せん定作業で回収した竹を有効利用できないものかと考えたのがきっかけで、現在は町内であまり竹がないので、西脇市内の不用になった竹を利用して製作しているそうです。

「この竹炭は消臭・除湿効果があり、またマイナスイオンを発生させているのでリラックス効果もあります。ぜひ皆さん一度お試しください」と、シルバー人材センターの松田さんは笑顔で話してくれました。

この竹炭は百グラム二百円で、JA兵庫南ふぁ～みんショップや加古郡シルバー人材センター窓口など町内三ヵ所で販売されています。

わらべうた遊びの会開催

三月二十七日(水)、子育て支援センターホールにてわらべうた遊びの会が開催され、雨という悪天候にもかかわらず、親子約七十人が参加しました。

▲親も子どもも一緒に楽しみました

講師に尼崎子育て支援センター「きりんはうす」の梅谷美子先生をお招きし、昔から伝わるやさしい音色のわらべうたを親子一緒に歌いました。

また梅谷先生は南京玉すだれ協会事務局長をされており、「八房波香」という芸名でテレビ出演されるほどの腕前。目の前で次々と形の変わる南京玉すだれに親子ともども不思議そうに見つめていました。

次世代の視点から　ため池を考える

三月二十四日(日)、中央公民館にて東播磨地域特有のため池について考える「小さな環境拠点。ため池コミュニティ会議」が開催され、住民、行政、大学講師ら約百人が参加しました。

▲熱心に聴く参加者

まず町内にある十二のため池について、播磨町環境審議会会長の横山孝雄氏が「ため池からはじまるまちづくり」と題し、「多くのため池が経済優先の考えによって失われた。孫・ひ孫の視点からため池を考えることも必要」と語られ、続いて播磨ウエットランドリサーチ代表の松本修二氏がスライドなど分かりやすい資料を使って「ため池の自然環境」について語られました。

その後、パネルディスカッションが行われ、「昔のような身近なため池を取り戻したい」という意見が出る一方、「事故防止や安全性をどう考えるかが課題」とさまざまな意見が出されました。

図書館ブックスタート事業始まる

四月十二日(金)、福祉会館にて行われる乳児健診時に、参加した赤ちゃんと保護者の方へ、絵本などが入ったブックスタート・パックを手渡しました。

赤ちゃんの心と言葉を育むためには、肌のぬくもりを感じながら、優しく語りかけてもらい、保護者と向かい合って、ことばと気持ちを通わせる時間が大切だと言われています。ブックスタートは、そのかけがえのない時間を「絵本」を介して持つことを応援する事業です。

▲絵本を通してコミュニケーションを

「ため池コミュニティ会議」

レポーター　藤本　真美さん

三月二十四日(日)、中央公民館で、播磨町のため池について考える会議がありました。

ため池は農業用水を貯えるだけでなく、さまざまな役割を果たしているのだということを、姫路工業大学の横山先生から伺い、また、ため池の自然について、水質の専門家である松本先生から、いろいろな水生植物の自生している様子などを、映像を交えながら、お話しいただきました。

私たち人間のしてきたことが、いま環境が危機に瀕(ひん)している結果を、生み出してきているのです。

今、私たち一人ひとりが自然を大切にするためにできることは何かを考えることが、非常に大事な時期なのだと知らされたように思います。

播磨町の住民が、播磨町の残された自然について考えることは、地球の環境をも守ることになるのではないでしょうか。

▲私たちにもできることを考えよう

燃えるごみ　分別すれば資源ごみ

レポーター　楠元　直美さん

平成十三年から資源ごみとして使えるプラスチックと紙類・布類の分別がスタートして、一年が過ぎました。

▲意外と多いプラスチックごみ

分別していると、材質がプラスチックでできている物がこんなにたくさんあるのに、びっくりしました。

最近、「プラ」「紙」とか表示してあるので、分別しやすくなりました。

プラスチックはかさばるので、ちょっとハサミを入れることで小さくなるので、大きな袋に入れなくても、スーパーなどでもらう袋にも入り、節約にもなります。

ホテルなどでも生ごみ処理機を導入して、残飯を処理し、できた肥料で季節の野菜を栽培してお客様に出しているところもあるそうです。

燃えるごみを一世帯、一日わずか二十グラム減らすことで、一年間処理する費用が二百五十二万円、節約できるそうです。

「自分一人くらいは」ではなくて、「自分一人でも」という考えを持って、住民の人たちもごみのダイエットに参加してみては、いかがでしょうか。

阿閇消防組から明治、大正、昭和、平成、四時代へ

レポーター　西村　英和さん

三月三日(日)、春の全国火災予防運動の一環として、防火啓発パレードで、各地域に巡回啓発に出発されました。

統一標語は、「確かめて、火を消してから、次のこと。」ちょっとした不注意から、火災が発生します。お互いに火の元に注意しましょう。

▲防火啓発パレードに出発

また、古田東消防団長の深津さんにお話が聞くことができました。

「現在、古田東消防団は二十五人の団員で構成されています。やはり一人ひとりの連携が大切。火事だけは起こさないでほしい、サイレンに敏感になる、防火の初期が大切である、常日頃から消火器などの取り扱いの訓練が大切である、高齢者が多く地域の財産を守ることが自分たちの仕事である。」など、私も話を聞いていると、大変苦労されているのが、ひしひしと伝わって来ました。

最後に、火災などの災害時に、いつも先頭にたっておられる消防団員の方は、生命と財産を守るため、日頃から訓練を行っておられ、影の力に敬服いたします。

これからも現役！

レポーター　政本　和子さん

趣味と実益を兼ねた植木せん定講習会が、三月八日(金)東部コミセンおよび長池児童公園を会場に行われました。加古郡広域シルバー人材センターが、シニアワークプログラム事業の一環として開催したものです。

▲真剣に聞く参加者たち

播磨・稲美両シルバーセンター会員三十六人、三木市シルバーセンターから六人、一般住民二十一人、計六十三人。内女性七人の参加がありました。

午前中、庭木全般に関する講義を受け、午後からいよいよせん定実習。快晴の空の下、講師の説明に参加者の熱いまなざしが集中します。公園の松の葉を一本一本手でつまんでせん定を行いました。

参加者はいずれも六十歳以上。作業に打ち込む姿に、熟年のパワーを感じます。これからも現役です。

地域の話題や行事をはじめ、「これは何？」と感じたことなど気軽にお知らせください。
企画調整課　広報係☎０７９４（３５）０３５６